

2024年度 入学試験解答用紙〔社会〕(35分)

第1回 2月1日実施 吉祥女子中学校

1  
問3, 9, 11  
各1点×3  
問1, 4~8,  
10,  
12~14  
各2点×10  
問2  
3点×1

問1		問2	
エ		現在よりも気温が温暖で、海水面が今よりも高く、海岸線が内陸まで入り込んでいたから。	
問3	問4	問5	問6
イ	エ	ア	ウ
問7		問8	問9
ほしか		ア	イ
問10		問11	問12
伊藤博文		ウ	オ
問13			問14
サンフランシスコ平和条約			ウ

【解答例】

26

問13の別解  
サンフランシスコ講和(条約)

2  
問4, 6  
各1点×2  
問9  
それぞれ  
1点×2  
問1~3, 5,  
7, 8,  
10~14  
各2点×11

問1	問2	
ア	ユニバーサル	デザイン
問3		問5
北里柴三郎		エ
問6	問7	問8
エ	エ	イ

問9		問10	問11
中部 地方	イ	近畿 地方	エ
問12		問13	
イ		猪苗代	湖
問14			
図1では、落雪による事故の危険があるが、 図2では、屋根の傾斜を内側に向けて、 雪解け水を溝から排出することができる。			

【解答例】

26

問14の利点の別解  
図2では、屋根の上に雪をためて、少しずつ解かすことができる。

3  
問2, 4  
各1点×2  
問1, 3,  
5~10  
各2点×8

問1	問2	問3	問4
ア	ア	エ	イ
問5	問6	問7	
イ	ウ	検	察官
問8		問9	問10
社会		ウ	エ

18

受験番号	氏名
	模範解答

得点
70

## 〔記述式解答の採点について〕

### 第1回

#### 1 問2

##### 【模範解答例】

現在よりも気温が温暖で、海水面が今よりも高く、海岸線が内陸まで入り込んでいたから。(3点)

##### 【採点のポイント】

- ① グラフの読み取り(現在よりも気温が高かったこと)(1点)
- ② 海水面が今よりも高くなっていたこと(1点)
- ③ 海岸線が内陸まで入り込んでいたこと(1点)

⇒一般的に、貝塚は魚介類が多く出土していることから、海岸沿いや川沿いに多くつくられることが想定されます。しかし、地図からは、貝塚が内陸地に多いことが読み取れます。この問題は、地図において貝塚がなぜ内陸地に多く見られるのか、その理由を、グラフから読み取った気温の状況と関連させて説明する問題です。

⇒問題文で示された紀元前4000年頃は縄文時代であり、紀元前4000年頃は、グラフの0年前(2000年現在)の地点からは6000年前に当たります。気候のグラフで6000年前の地点を確認すると、現在に比べて2度ほど気温が高いことが読み取れます。今より温暖な気候であったということは、紀元前4000年ころは海水面が現在よりも上昇しており、そのために海岸線が内陸地まで入り込んで、地図で貝塚があったあたりまで海が広がっていたということが推測できます。

⇒「気温が下がったために海水面が上昇した」という答案が複数見られました。「縄文時代は、現在陸地であった部分も一部海であった」ということを知っていても、その原因が温暖な気候にあるところまで理解できていないようでした。歴史の学習では、事象を暗記するだけでなく、その因果関係まで理解するような学習を進めて欲しいと考えています。

##### 【部分点を与えた解答例】

気温が今より温かく、現在陸地のところが海だったから。(2点)

気温が下がり、海だったところが陸となったから。(1点)

⇒1つ目の例では、温暖化したことと、海岸線のことについては触れていますが、海面が上昇したことについては説明されていませんので、2点としました。2つ目の例では、「海だったところが(現在は)陸になった」という点について、貝塚が現在内陸にある理由を説明しているとして得点を与えました。しかし、前半の「気温が下がり」という部分については、当時の気温の状況について述べているのか、現在のことを述べているのか不明で、グラフを正確に読み取っているか判断ができなかったため、得点を与えませんでした。

##### 【得点を与えなかった解答例】

氷河期で大陸が陸続きになっていたから。(0点)

⇒1万年前ころの、温暖化で日本列島が形成された話をしているため、問題が指定する時期とずれています。そのため得点を与えませんでした。

## 〔記述式解答の採点について〕

### 第1回

#### 2 問14

##### 【模範解答例】

図1では、落雪による事故の危険があるが、図2では、屋根の傾斜を内側に向けて、雪解け水を溝から排出することができる。(2点)

※工夫の別解：図2では、屋根の上に雪をためて、少しずつ解かすことができる。

##### 【採点のポイント】

①図1の住宅の危険性に触れているか(1点)

②図2の住宅の工夫に触れているか(1点)

⇒雪が多い地域では、従来、図1のように家の外側に向かって屋根の傾斜をつけて、雪が家の周囲に落ちてくる構造の家が多くみられます。このような屋根の構造の家では、落雪による事故や雪下ろし作業時の事故の危険性があります。屋根の端に氷柱(つらら)が形成されやすいことや、家の周囲に落下した雪を処理しなければならぬことなどの課題もあります。これらの課題を解決するために、近年、建物の耐久性が強化された結果、図2のように家の内側に向かって屋根の傾斜をつけて、屋根の上に雪をためて少しずつ雪を解かし、雪解け水が中央の溝から排水できるようにした構造(無落雪屋根)の家が増えてきました。比較的降雪量の少ない北海道を中心に普及しているようです。

⇒気候と暮らしに関する基礎的な出題ですが、比較的新しい動きや考え方を理解しているかを問う問題です。なお、②のポイントとしては、「屋根を平らにして安全に雪下ろし作業ができるようにしている」といった解答にも得点を与えませんでした。

##### 【部分点を与えた解答例】

図1では、雪下ろしをするときに転落する危険があるので、図2のようにして落ちないように工夫している。(1点)

⇒この解答は、①のポイントは満たしていますが、②のポイントは満たしていません。図2の工夫の内容にもしっかり触れてほしいものです。

##### 【得点を与えなかった解答例】

図1の家は、雪の重みでつぶれてしまう危険があるので、図2の家では耐久性を強化した。(0点)

⇒図1の家では、屋根に大量の雪が積もって、雪の重みでつぶれてしまわないように屋根の傾斜が急になっているので、①のポイントの得点を与えていません。また、耐久性を強化したことは、設問文に書かれている前提なので、②のポイントも得点を与えていません。なお、②のポイントとしては、「雪解け水を屋根にためて水不足に備える」といった誤答もありました。